

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。在来ユリ類との競合や在来種との雑種形成の可能性があります。在来種のユリが自生する甬島、奄美群島、請島などでは交雑のおそれがありますので、栽培することは控えましょう。

1 基本情報	
分類	
目・科名	ユリ科
種名(亜種名)	タカサゴユリ
学名	<i>Lilium formosanum</i>
環境省カテゴリー	その他の総合対策外来種
県カテゴリー	一般防除種
由来	国外由来外来種
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—
侵入・定着の状況	
自然分布域	台湾
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	栽培逸出
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地
全国の侵入分布	宮城、福島、関東以南の本州、四国、九州、琉球列島
生態学的特性	
生態	日当たりの良い法面や道路わき、空き地などに侵入する。
形態	高さ約1.5mの多年草。 茎の高さは0.3～1.5mで、葉が多く互生している。葉は無柄でやや茎を抱き、線形。花の内側は白色で外側が赤紫色、1～数个、上つき、横からやや下向きに咲く。
繁殖形態	花期は7～11月。 風媒花、自家受粉可。種子を大量に風散布。
生息環境	亜熱帯～温帯の荒地、道端、堤防、高速道路法面。
特記事項	—



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来ユリ類と競合。繁殖干渉(在来ユリ類と雑種形成のおそれあり)。
県内で特に予想される被害	県内の在来ユリ類と競合。在来ユリ類と雑種を形成する可能性がある。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
タカサゴユリを見つけたら	在来種のユリが自生する甌島周辺、トカラ列島、奄美群島などでは交雑のおそれがありますので、栽培することを控えましょう。
見分け方	タカサゴユリは、幅1cm、長さ15cmほどの線形の葉をやや密につける。類似種であるテッポウユリは、披針形の葉で長さは10~18cm。
見かけやすい場所・時間	日当たりの良い法面、荒地、道端、堤防、高速道路法面に生育する。
防除方法	抜き取りによる防除。
防除の取組事例	奄美大島で、2015年5月27日に、大和村と環境省野生生物保護センターによる駆除作業が行われた。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81040.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 奄美新聞 2015年5月27日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20150527-3 佐竹ほか(1981)日本の野生植物 I. 平凡社. 東京